

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3271600458		
法人名	有限会社 美奈須		
事業所名	グループホーム 萌 ひまわり		
所在地	島根県出雲市斐川町学頭1322-1		
自己評価作成日	令和元年8月10日	評価結果市町村受理日	令和元年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和元年8月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

私たちは15年振りに理念を刷新し、ご利用者がこれまで以上に安全と安心のある生活をお過ごし頂けるように支援しております。その中で、私たちの強みは3点あります。①地域の皆様と一緒に四季を感じる行事を行っています。初春の餅つき大会や春の笹巻き、ご近所自宅で桜の花見、秋は中秋の名月等、ご利用者の皆様に季節を五感で感じて頂ける行事を地域一体で行っています。②ご家族との絆を大切にしています。これは、ご家族と職員で『認知症ケア勉強会』を年4回行い、認知症について多くの皆様と勉強を行いました。また、ご家族・ご利用者・職員とのコミュニケーションを図る場として、『家族会』や『交流会』を行い、外食の機会を設けています。③平成30年出雲市グループホーム実践発表会の場で、『認知症ケア勉強会』の事例発表をし、最高賞の会長賞を受賞することが出来ました。

グループホーム 萌 チューリップ に記載しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年7月に職員が覚えやすく理解しやすい為に、理念を刷新し、職員全員が出勤時に理念を唱和後にチェック表に記入している。そのことで、常に理念を意識し、立ち返って利用者が安心できるケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議は約10名の地域の方に出席頂いている。また、四季ごとの地域行事に招待頂いている。施設内行事でも近所の方をお招きして安来節披露の行事を行ったり、地域の防火協力員と火災訓練をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者ご家族や運営推進会議で『認知症ケア勉強会』と題して3回シリーズで認知症予防や基礎知識、具体的症状や終末期まで勉強会を行った。実施後アンケートからは、好評で第4回勉強会のリクエストを頂いた程だ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの地域の方に出席頂き、施設の取り組みをお伝えするだけでなく、日常生活で役立つ内容を伝え、有意義な会議としている。また、会議出席者の方にボランティアでお越し頂き利用者様と多くの関わりがある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出雲市に火災や土砂災害等の訓練の報告や毎月発行する『もえつうしん』を月初めに持参し様子をお伝えしている。また、分からない点はその都度聞いて情報を共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束の勉強会を職員と行っている。身体拘束をする際には、主治医とご家族に毎月承諾印を頂き、全職員が承諾することで行い、利用者の心身の状況から都度見直しを検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回以上、身体拘束防止委員会と同時に見直しの検討を行っている。虐待防止についての勉強会も開催、一人ひとりが自覚し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成年後見制度を利用し権利擁護を受けておられる。その為、職員へ制度についての勉強会を研修行っている。(社会福祉士取得者がおり、利用者ご家族にも勉強会を行った)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明は一語一句を口頭で説明している。契約書や重要事項説明の変更があった際には、お一人ずつ書面と口頭で説明し、疑問点を必ずお聞きした上で承諾印を頂戴している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	過去、各ご家族とカンファレンスは行ってきたが、今年より家族会や交流会といった場を年4回設定し、ご家族と職員の意見交換会と題して意見の場を設けている。また独自に家族アンケートを行い運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを行い、運営に関する職員の意見や考え方を聞き、管理者と協力して脂質の向上を図っている。給与時には、一人ひとり面談を行い、意見や提案を聞く場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年3月より誕生日休暇、お盆正月休暇を設定し休暇の充実を図っている。また、処遇改善交付金は自身が設定した目標を期末に自己評価する仕組みを作っている。新人教育はOJTにより環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の内部研修を充実させ、同内容を全職員で学ぶことを目的に年10回の研修を実施。外部より皮膚科や看護等の専門職の講義や社労士の労務管理を学習し、リスク管理等のディスカッションを行い資質を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年7月に他介護施設へ利用者と職員で交流会を行っている。また、昨年11月は出雲市認知症グループホーム協議会主催の研究実践発表会で発表をしたり、他施設事例内容も学ぶことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、長年生活してこられた自宅へ事前訪問してご本人が困っていることや不安点を聞き、その人を知り、入所後に安心して暮らして頂けるようにしている。また、入所直後すぐにご家族交えてカンファレンスを行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後すぐにご家族と職員で話し合う場を多く作り、ご家族の不安や要望を他の方の例を交えてお伝えし、安心頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前事業所の相談員やケアマネージャーからご本人と家族が必要としている支援を事前情報として詳しく得るほか、見学時に思いをお聞きしている。その際に他サービス利用についてケアマネージャーや社会福祉士が対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の皆様は人生の先輩であり、多くの経験や知恵をお持ちである。その為、職員が教わる事が多く、例えば畑や料理の調理方法、田植えや稲刈りなどを教えて頂け、双方の関係が保たれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昨年一年間を通して、ご利用者が安心して過ごして頂くことを目的に「認知症ケア勉強会」を開催し、これからご家族が行えるケアについて説明を行った。また、家族会では一緒に昼食作りをして頂き絆を深めてもらった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者自宅の墓参りに帰ったり、病院へ見舞いに行ったりと、ご友人との大切な関係が途切れないようにご家族の協力を得て支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や生活歴から、生活の中心となるホールでのテーブル席を決めさせてもらい、ご本人が安心して笑い合っているように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議では、元利用者ご家族として毎回出席頂いている方や毎年家で収穫した野菜を持参して下さっている。他施設に移られてからも、訪問して経過をフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから言葉や表情、仕草等から本人の意思をくみ取り、得意なことを探して笑顔に過ごして頂けるよう努めている。困難な場合は、職員カンファレンスを行ってご本人の行動等から情報を収集し、把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、なるべくご自宅へ訪問して暮らし方を把握するようにしている。施設の利用者の方であれば、相談員に詳しく情報提供してもらい暮らしに馴染んで安心した暮らしができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で都度話し合いをして、ご本人の生活や心身の状態、ADLについて現状を理解し、支援内容の変更を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の介護記録の開示をご家族にして、要望や意見を記入して頂いている。その意見に沿ってご家族や職員間とカンファレンスを実施し、生活面の課題や支援の見直しを介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録内容を昨年変更し、重要な基本情報(バイタル・水分・排泄・食事等)は記号化し、ご本人の言動や表情を中心に文章にすることで日々の変化に気づき、介護計画の見直しや支援内容の変更に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族、主治医との話し合いにより、専門医療機関への通院支援を行ったり。病院へ入院された後も職員が面会に訪問し、相談員や看護師から情報提供頂き、退院後の柔軟なサービスを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	湯の川の温泉湯でご利用者の入浴をさせて頂いている。地域では、いりすの丘で笹巻き会や餅つき会等を行ったり、地区コセンでの文化祭出展、幼稚園児との交流や近所のお寺の夏祭りへの参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回の主治医の往診と急変時などの臨時往診を基本として、医師や看護師と長く関係を保つことが出来ている。また、病状に応じて他の専門医による通院もご家族同席で行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在職場内に看護職はいないが、褥瘡治療や点滴治療の為に訪問看護を利用することがあり、その際は都度バイタルや表情等の基本情報をFAXで伝えることで適切な処置が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変時の対応マニュアルを改正し、職員の役割分担を明確化しスムーズに安心して治療できるように対応した。また、主要な医療機関との繋がりを深める為に地域連携室に『もえ通信』の配布をしており、スムーズな情報交換ができるように整備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、終末期のあり方について現在の考えをお聞きしている。(終末期のあり方について説明書類を今年改正した)また、重度化や終末期が近づくに家族の希望を主治医同席にて話し合いの場を作り、今後の方針を介護・医療両面で決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年、医療機関看護師長にお越し頂いて急変時対応の研修を行っていただいた。また、急変時対応マニュアルを改正し、即座に対応できる体制を整えている。応急手当や心肺蘇生は年1回以上訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て、毎月災害訓練を行っている。火災訓練では、地域の防火協力員にも緊急連絡網で駆けつけて頂き、終了後は反省会にて改善を行っている。昨年は20名近くの地区の方に訓練の様子を見学頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・権利擁護委員会を設置し、情報保護を職員で共有している。また、声かけ等は3年前より行っている『ユマニチュート』の技法を徹底しており、ご本人が安心して意欲を持つことができるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洗濯物や野菜の切りもの等の家事作業はホルターブルに置いていると「やりますね」と自然と作業をして下さる。職員が声かけをしなくてもお互いに協力し合っておられる。職員は材料を用意するのみ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご本人の体調や表情を見ながら、喫茶店へお連れしたり散歩をする等の日々のご本人の希望に沿うように支援をさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が選んだ衣類等を着て頂いている。四季に合った洋服(半袖・長袖)は、ご家族に衣替えに来て頂いている。また、花好きな方は居室に花を添えて居室が華やかな雰囲気になるよう飾りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備では、お一人ずつ得意な仕事を役割を持って行っている。包丁での野菜切り、皮むき、盛り付け、皿拭きといった作業を全員の方に行って頂いている。おはぎ作り等時期にあった料理も一緒に作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今年5月に言語聴覚士による咀嚼・嚥下機能の研修会を全職員で行い、一人ひとりの姿勢や咀嚼、嚥下状態から見直しを行った。食事内容は栄養が偏らないように、管理栄養士監修の食材を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎年歯科院長に口腔ケア勉強会や検診を実施頂いている。勉強会では、磨き方やブラシの種類を全職員で学び、その成果として検診では全てのご利用者の口腔内が清潔にされていると院長に評価頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前・食後のトイレへの声かけや夜間では、一人ずつの排泄パターンに応じた声かけをして失敗が減少している。また、日中の活動時はトイレでの排泄の為にパンツ型にさせてもらい、オムツの使用が減少している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日2回ラジオ体操を行い、運動への働きかけをしている。飲食物では、乳製品(牛乳・ヨーグルト)や水分摂取1日1500mlを目安に、本人の好みの物(ジュース含む)を準備して自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	湯の川温泉はご利用者の皆さまは「よく知ってるよ」と入浴を楽しみの一つとして頂いている。朝風呂と称し、同性同士でのゆったりくつろいだ入浴となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	血圧安定の服薬のある方は、午前中2度血圧測定し、状況によって休息頂いている。また、夜間寝つけない方は1日の生活リズムを見直し、家事作業を継続的に行ったり、草取り等をしてリズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように、利用者の顔写真を服薬に貼り、職員2人で確認することで防止を図っている。また、薬の目的や副作用、用法が全職員理解できるように個人ファイルに服薬情報を保管し、閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業等の日頃よりされていた事を行って頂いている。野菜作りは、過去に野菜を育てておられた利用者には畑の作業や管理を行って頂いている。刺し子が得意な方は施設内に展示して喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じてもらえるように、お花見(桜・ハマリ等)や紅葉、夏場のドライブにお連れしたり、ご本人の希望に沿って喫茶店やスーパーでの洋服の買い物にお連れしている。また、年2回のご家族同士の食事会を開催したり、墓参りにもお連れしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はお小遣いとしてお預かりし、外出時にはそれぞれお金を所持してもらい、ご自分で支払いをして頂いている。野菜の種買い、衣類、喫茶店での支払いも一緒に出掛けて購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月発行の『もえつうしん』で手書コメントや暑中見舞いや年賀状をご自分で書いてご家族や知人宛てに送付して頂き、電話も遠方のご家族には週1回は話をしてもらったり、手紙を書く等の機会を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな山間の風景と施設内の暖色の木を基調とした暖かな空間である。また、季節を感じるお花や階段には季節それぞれの装飾を行っている。五感を感じて頂く為に、施設内の空気の入れ替えや掃除を毎日3回行い、清潔な環境でお過ごし頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、利用者同士が笑い合える空間作りを目指し、皿拭き洗濯たたみ等を同テーブルで行って頂いている。また、レクリエーション室で山や田んぼの景色を見ながら、又は畳の和室で気の合う方同士で話をしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の空間は、ご本人やご家族と相談した中でベッドやタンスの位置を決めている。車椅子や足の痛みの方によっても各々位置が異なる。また、家族アルバムや仏壇、ラジオで馴染みの歌を聴く等の環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能が異なる為、主治医・本人・家族承諾の上でベッドより立ち上がり方が困難な方に柵を手すり代わりに使用して転倒防止を図ったり、足元が不安定な方は低反発シートを敷いて安全な暮らしをして頂いている。		